▣桐野利秋（六卷）

アシヤ時代映畫

脚色者　小國比沙志氏
監督者　長尾史錄氏
撮影者　下村健二氏

―主要役割―

桐野利秋（幼名中村半次郎）市川百々之助氏
西郷吉之助　瀬川銀潮氏
近藤勇　市川好之助氏
神原大學　東良之助氏
藝妓小房　東京子孃
同ぼんた　二葉菊子孃
萬亭主人惣兵衛　阪東豊昇氏
女將およし　小池春枝孃

〔略筋。西南の役に西郷南州と共に空しく城山の露と消ゑた桐野利秋は幼名を中村半次郎と云つて抜討を以つて有名であつた。祇園で勤王藝妓として知られた名妓小房は半次郎の思ひ者であつた。勤王の志を抱く西郷吉之助の一味は常に新選組に狙はれ、半次郎もその一人である故に常に新選組の首領近藤勇に淺からぬ怨みを抱き、事々に衝突して居たが一日西郷の諫めを用ひずして彼の淺慮から數名の有爲の志士を智恩院に失つた。再び西郷に意見されて隱れ家に歸ると日頃から小房に想ひを寄せて居た神原大學の爲め妹藝妓ぼんたは殺され小房はその邸宅に捕はれて行つた事を知り、神原の邸に斬り込み大學を討ち、序に勤王志士狩り立ての幕命を受けて入洛した圖部下守をも斃して數多き同志の靈を弔つた――と云ふ桐野利秋若き日の譚りである。〕

百々之助氏の生氣潑溂たる立廻りに依つて痛快凜漓たる猛闘劇を構成して居る。百々之助氏の案出になつたと云ふ「たて」にも中々新し味が認められた。殊に智恩院の近藤勇との一騎打に於るそれなどは觀客を熱狂せしめて居る。小國比沙志氏の脚色は百々之助氏を生かし且娯樂價値を絶大ならしめんとする苦心の跡歴然たりである。長尾史錄氏の監督は亂闘劇としては申し分のない出來で生氣もあり痛快さも有つて結構であるが、氏の眞の會心の作品ではあるまい。評者は氏が眞の手腕を發揮すべき作品はかうした亂闘劇に求むべきではないであらうと信じて居る、初御目見得の東京子孃の小房は初出演前から盛んな宣傳で知られて居た人だけ多少期待したが、宣傳程でもなく凡優の域を脱して居ない。併し初演としては不出來ではない、撮影は優れて居る。殊に京都のロケイションは繪の如き美しさである。

―山本　綠葉―

興行價値―肩が凝らないで溜飲の下る映畫で烈しい猛闘乱闘に痛快を感じない者はあるまい。民衆に絶大に受ける事確實である。

（四月二十三日、大阪芦邊劇場封切）